

ことでん沿線地域公共交通総合連携計画（概要版）

目 的

- 高松琴平電気鉄道（以下、ことでん）は、平成13年の民事再生法適用以降、行政、地域の民間企業から支援を受けつつIruCaの導入等、サービス改善を重視した各種取組みの下、経営再建が進められてきたが、なお利用者は減少傾向にある。
- さらに、沿線においては、人口の減少や少子高齢化が進み、今後も収益の拡大が見込みにくい状況にある。
- このような厳しい情勢のなか、ことでんの活性化を図り、ことでんを中心とした県全体の公共交通体系を強化するとともに、地域の活性化につなげていくうえで、交通事業者の経営努力はもとより、行政や一般市民等が連携して支えていくことが重要。
- このため、地域公共交通活性化及び再生に関する法律に基づく法定協議会を設置し、地域公共交通総合連携計画を策定。

○協議会名称：ことでん活性化協議会

○設置年月日：平成22年3月23日

○構成員：香川大学教授、香川高等専門学校准教授、香川県、高松市、丸亀市、さぬき市、三木町、綾川町、琴平町、まんのう町、（社）香川経済同友会、ぐるっと高松公共交通を育てる会、高松琴平電気鉄道（株）、四国運輸局香川運輸支局

対 象 地 域

高松市、丸亀市、さぬき市、三木町、綾川町、琴平町、まんのう町

計 画 期 間

平成23年度～平成25年度（3年間）

なお、将来的なビジョンとして、中長期的な視点に立った施策についても記載。

基 本 方 針

- 都市鉄道としての特性を活かした、県内の地域公共交通体系の強化
- ことでんの駅を核としたまちづくりと地域の活性化

目 標

<基本目標>

【目標1】ことでんの軸・結節点を強化します

【目標2】ことでんの利用意識を高めます

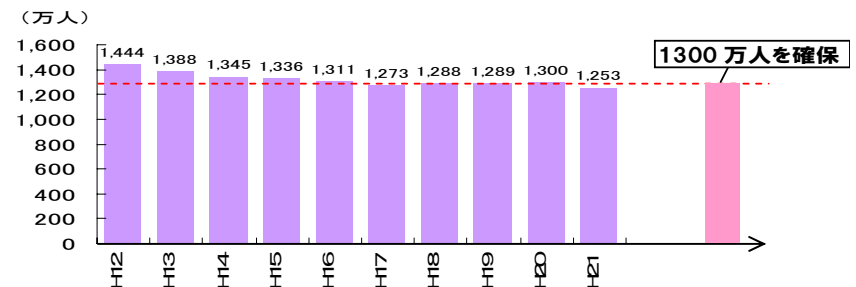
【目標3】ことでん自身で自主的な取り組みを図ります

<数値目標>

年間利用者数1,300万人を確保します

（平成21年度利用者：1,253万人に対して、約4%増加）

<ことでんの利用者数の推移と目標値>



目標を達成するために行う事業及び事業主体

●重点駅の整備(新駅の設置、パーク&ライド駐車場の整備、駅前広場の整備)

- ①新駅(三条駅～太田駅間) : 新駅の設置、パーク&ライド駐車場の設置、駅前広場の整備、高速バスの接続
- ②仏生山駅 : パーク&ライド駐車場の設置、駅前広場の整備
- ③新駅(陶駅～滝宮駅間) : 新駅の設置、パーク&ライド駐車場の設置、駅前広場の整備
- ④新駅(花園駅～林道駅間) : 新駅の設置 等

■実施主体：高松琴平電気鉄道株式会社、沿線市町、香川県

■実施期間：導入可能性を含め、中長期的に検討

●乗り継ぎの改善

- ①ICカードによるシームレス化
- ②駅乗り継ぎのシームレス化
- ③ことடன்・バス間の乗り継ぎ改善

■実施主体：高松琴平電気鉄道株式会社、香川県、沿線市町、他の交通事業者

■実施期間：平成23年度～25年度(3箇年中において導入の可能性や形態等に係る検討や調整等を行ったうえで、目処が立った事業から順次事業を推進)

●運行頻度の向上

- ①昼間時間帯の増便
- ②21時台以降における増便
- ③終電の延長(終電運行区間の延伸)

■実施主体：高松琴平電気鉄道株式会社、香川県、沿線市町

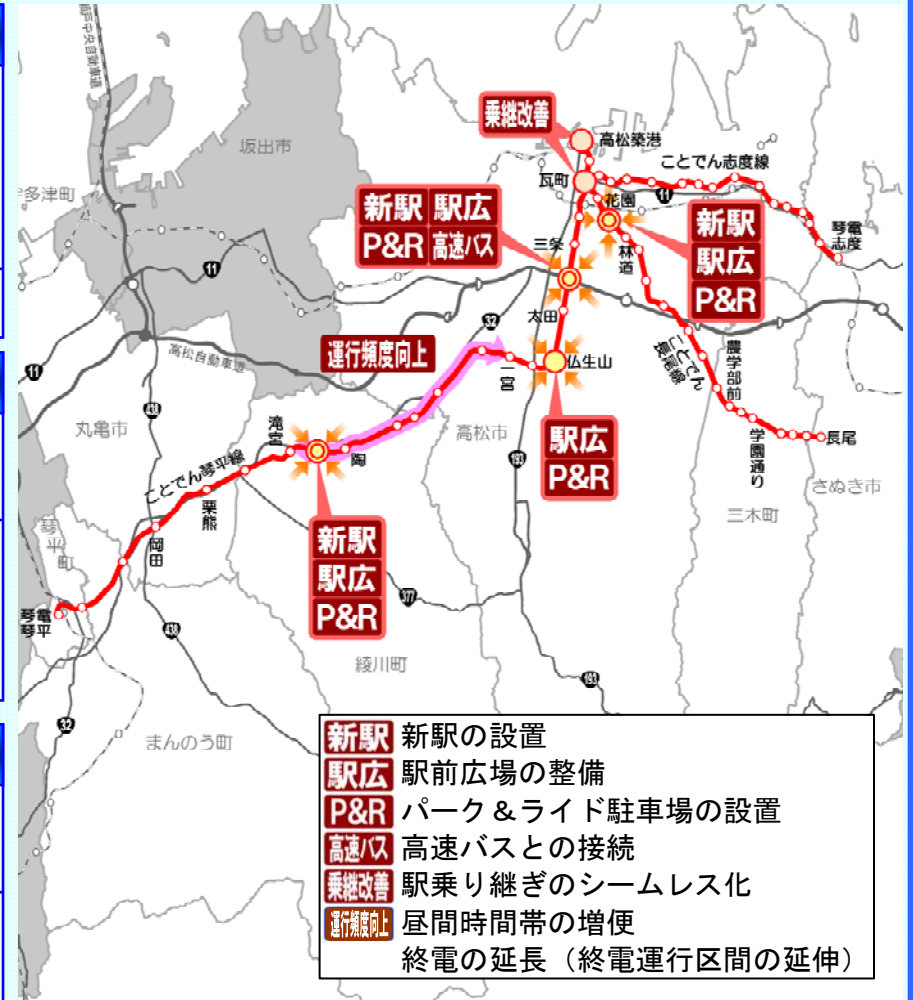
■実施期間：平成23年度～25年度(3箇年中において、社会実験等を実施し、その効果等を踏まえて、継続的实施に係る判断等を実施)

●ことでの利用促進

- ①パーク&ライドやサイクル&ライドの促進
- ②ことでの利用意識向上

■実施主体：高松琴平電気鉄道株式会社、沿線住民、沿線市町、香川県

■実施期間：平成23年度～25年度(3箇年中において、検討を行い、その内容を踏まえ、効率的で効果的と判断できる事業から順次実施)



※これらの事業については、目標を達成するために、中長期的な視点に立って、事業の導入の可能性や形態等に係る検討や調整等を行ったうえで推進するものも含まれており、事業実施が確定しているものではありません。